



なぜ今 里山広葉樹に着目するのか

—国産広葉樹の需給をめぐる最近の動向から—

(国研) 森林研究・整備機構
森林総合研究所
林業経営・政策研究領域
青井秀樹



本日本話する内容

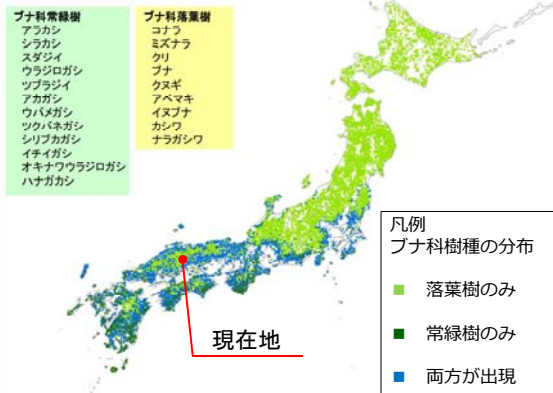
- はじめに
- 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その1
- 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2
- まとめ



1.1 はじめに

本日のテーマ = 里山広葉樹

- 『里山広葉樹』と言えばどの樹種をいいますか？
 - (例えば) 落葉広葉樹と常緑広葉樹の分布注) : ブナ科の落葉樹と常緑樹の分布を見ると、全国では大きく異なる。
 - 同一地域内でも、標高が高くなると意外な樹種の出現も。
- 地域によって植生が変化。
- ここではブナ科の樹種のうち、**コナラ、ミズナラ、アベマキ、クリ**等が優勢！？



注)
<http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/tayouseichousa/pdf/tayousei.pdf>



1.2 広葉樹の用途は樹種によってさまざま・・・

- 紙パルプ (基本的に樹種不問 (除: クス、キハダ)) (小径、曲がり、節の多い原木)
- バイオマス発電用の燃料 (樹種不問) (小径、曲がり、節の多い原木)
- カツオ、サバ等のいぶし用の燃料 (カシ類)
- きのこ用のほだ木、おが粉 (コナラ、クヌギ、ブナ、シイ、シラカンバ等)
- 医薬品の原材料 (クロモジ (養命酒)、キハダ (正露丸) 等)
- ハム等の燻製用チップ (サクラ類、コナラ、クヌギ、ブナ、カシ類、カエデ類等)

以下が**マテリアル用途** (マテリアル=木材そのものを活かしてモノとして利用すること)
本日の議論の対象

- 木造建築物の構造材 (ケヤキ、クリ、ブナ等)
- 家具、内装材 (ミズナラ、コナラ、ブナ、クルミ類、ニレ、ウダイカンバ、イタヤカエデ、タモ、セン、クリ、サクラ類等)
- 楽器 (ミズナラ、ブナ、イタヤカエデ等)
- 伝統工芸品の木地 (トチ、ケヤキ、クリ、サクラ、ミズメ等)
- 枕木 (クリ、ニレ、セン等、(注: 東南アジア産アピトン、ケンパス等))
- 野球のバット (アオダモ、(注: アメリカ産シュガーメイプル、中国産アオダモ))
- トラックの荷台用フローリング (注: 東南アジア産アピトン、ケンパス等)
- 醸造酒用の樽 (ミズナラ、(注: アメリカ産ホワイトオーク))



1.3 なぜ今 里山広葉樹に着目するのか の理由

あらかじめ、結論を申し上げますと・・・

- 理由その1：世界的に優良広葉樹が入手困難であるため
- 理由その2：他原木市場では高値続出、里山広葉樹も、売り方次第で、好単価を期待できるため

以降で、これらの根拠を説明予定



「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その1

〜〜世界的に優良広葉樹が入手困難であるため〜〜



2.1 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その1

〜〜世界的に優良広葉樹が入手困難〜〜

- 家具、内装材等では、かつて北海道産、東北産の国産広葉樹原木を主に活用。しかし1980年代以降、中国、ロシア、北米、欧州等の海外産に代替。

注1：家具用広葉樹需要量（原木換算）72万m³（注：2015年時点。オフィス家具は含まず。安藤範親氏報告（農林金融、2016年6月号）引用。）

注2：統計資料は無いが、感覚的には原材料の国産：海外産比率は2：8くらいか！？

- （為替レートが円安に） 2012年後半からの急激な円安で、円換算価格高騰。現地価格の高騰も影響。

- （自国の資源保護の動き） 2014年にロシアが自国のタモヤナラ等の保護のためワシントン条約附属書Ⅲに登録。



（注）対ドルはインターネット情報（東京市場）スポットレート。対ユーロ・対人民元はそれぞれの対ドルレートから算出。対人民元の目盛も対ドル・ユーロの目盛と同様幅倍率となるように設定している。
 （資料）IMF, International Financial Statistics (IFS)

（出典）<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/5070.html>



2.2 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その1

- 2017年施行のクリーンウッド法（CW法）による影響も！？
 - （家具・内装材）「CW法施行後、原材料の買い付け動向の変化は？」に対してメーカー「特に無し」。大手メーカーは既に対応済みか。
 - 「CW法施行後、熱帯材等を使用する主体の動きは？」に対して大阪府木連「出所不明の広葉樹材を敬遠する動き。特に単価の高い広葉樹材はその傾向顕著。」
 - （外構材）海外産デッキ材を扱う企業のHPでは2017年3-6月に変化、ひっそりと廃版、販売中止の告知も。告知無しでのページ削除も。

ブラジル産広葉樹製品廃版



インドネシア産セラガンバツ製品廃版



東南アジア産ウリン製品販売中止





2.3 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その1

今お話しした内容を整理すると

- 背景1：為替レートが大きく円安に
- 背景2：自国の資源保護の動き
- 背景3：クリーンウッド法による木材の合法性確保の動き

「為替レートと関係性が乏しい」
「他国の動向との関連性が乏しい」
「合法性確保に問題無し」

} 里山広葉樹！



「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

〜〜他原木市場では高値続出、里山広葉樹も、
売り方次第で、好単価を期待できるため〜〜



3.1 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

・ 主要な樹種の落札単価動向 1

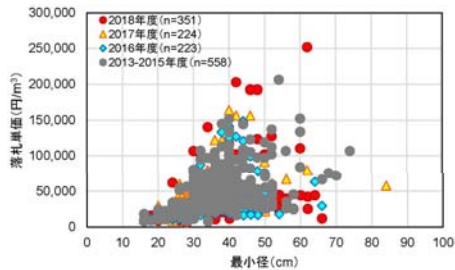


図1 ミズナラの落札単価動向
(北海道、青森県、岩手県産)(長さ3.5m以下)
(2013-2018年度委託販売結果)
(凡例の右隣の数字(n=xxx)はサンプル数)



- ・ ミズナラは、中国地方の標高の高い山林で見かける傾向
- ・ 同一の最小径で比較すると、2018年度のサンプルのいくつかは、過去6カ年で最高値



3.2 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

・ 主要な樹種の落札単価動向 2

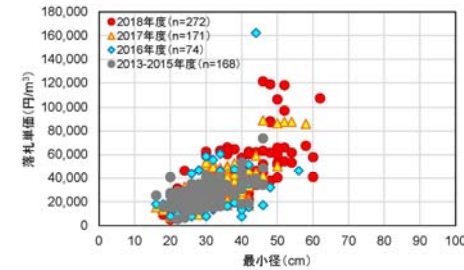


図2 クリの落札単価分布
(青森県、岩手県産)(長さ3.5m以下)
(2013-2018年度委託販売結果)

- ・ クリは、中国地方の山林で広く見かける傾向
- ・ 同一の最小径で比較すると、2018年度のサンプルのいくつかは過去6カ年で最高値



3.3 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

• 主要な樹種の落札単価動向 3

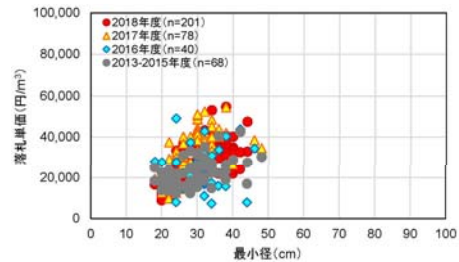


図3 ヤマザクラの落札単価分布
(青森県、岩手県産)(長さ3.5m以下)
(2013-2018年度委託販売結果)

- ヤマザクラは、中国地方の山林で広く見かける傾向
- 同一の最小径で比較すると、2016、2017年度のサンプルのいくつかが過去6カ年で最高値



3.4 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

• 主要な樹種の落札単価動向 4

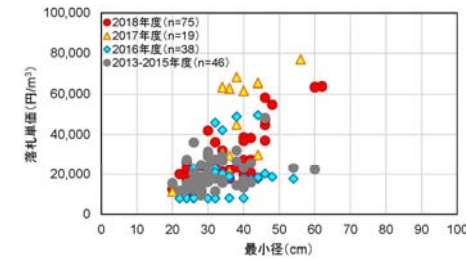


図4 トチノキの落札単価分布
(青森県、岩手県産)(長さ3.5m以下)
(2013-2018年度委託販売結果)

- トチノキは、中国地方の標高の高い山林で見かける傾向
- 同一の最小径で比較すると、2016、2017、2018年度のサンプルのいくつかが過去6カ年で最高値



3.5 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

• 主要な樹種の落札単価動向 5

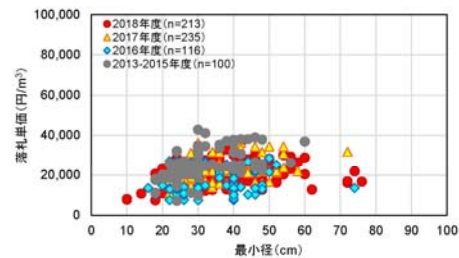


図5 ブナの落札単価分布
(青森県、岩手県産)(長さ3.5m以下)
(2013-2018年度委託販売結果)

- ブナは、中国地方の標高の高い山林で見かける傾向
- 落札単価が4万円/m³で頭打ち (ブナは例外!?)
- 年度別に比較しても明確な傾向は見られず



3.6 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

• 主要な樹種の落札単価動向 6

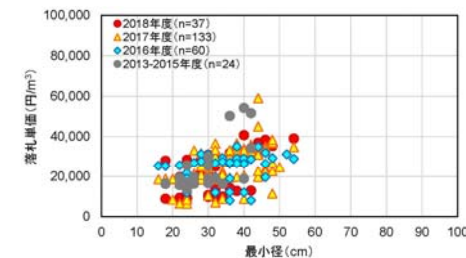


図6 コナラの落札単価分布
(青森県、岩手県産)(長さ3.5m以下)
(2013-2018年度委託販売結果)

- コナラは、中国地方の山林で広く見かける傾向
- 2013-2015年度のデータが少ないため、同一の最小径で比較すると、他樹種ほど明確な傾向無し!?
- 注1: 委託販売結果のうち、青森県、岩手県での委託販売にて「ナラ」または「コナラ」と記されたものを対象
- 注2: 目下、データを確認中のため、分析結果が変わる可能性あり
- 他の樹種でも分析したが、サンプル数が少なく、傾向が明確でないため、それら樹種は割愛



3.7 「なぜ今 里山広葉樹に着目するのか」の理由 その2

今お話した内容を整理すると

○北海道、東北地方では、2016、2017、2018年度において過去6カ年で最高値を記録する樹種も

○特にミズナラ、クリ、ヤマザクラ、トチノキ等でその傾向が顕著

売り方次第では、
里山広葉樹も、好単価が期待できるのではないか???



4. まとめ

- 多くの実需者は「北海道と東北以外でまとまった量の広葉樹資源は無い」と誤解。
- また統計資料上では、樹種別の蓄積量の公表はほぼ皆無。実需者にとって、欲しい樹種の蓄積量が不明なので正式採用に不安。
- そうした状況にありながらも、多くの実需者は里山広葉樹に強い興味。

- 売り方の例としては・・・
 - 広葉樹原木が一度に数百m³集まるならば「市売り」も
 - 広葉樹原木が少量であれば個別の実需者との「直取引」も

- いずれの場合でも、広葉樹原木を製材する製材所の協力が必要



ご清聴、ありがとうございました。
今後とも、ご指導の程を
よろしくお願い致します。